

2023年度 第2四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2023年10月27日
日本ゼオン株式会社

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.26	2023年度 業績予想
P.27	2023年度 配当金予想

【総括】

- ◆ Q2連結実績は対前年同期で減収減益、対前期で増収減益
- ◆ 原料価格は国産ナフサ、アジアブタジエンともに下落、為替は円安
- ◆ 2023年度業績予想について、当期純利益を除き下方に修正

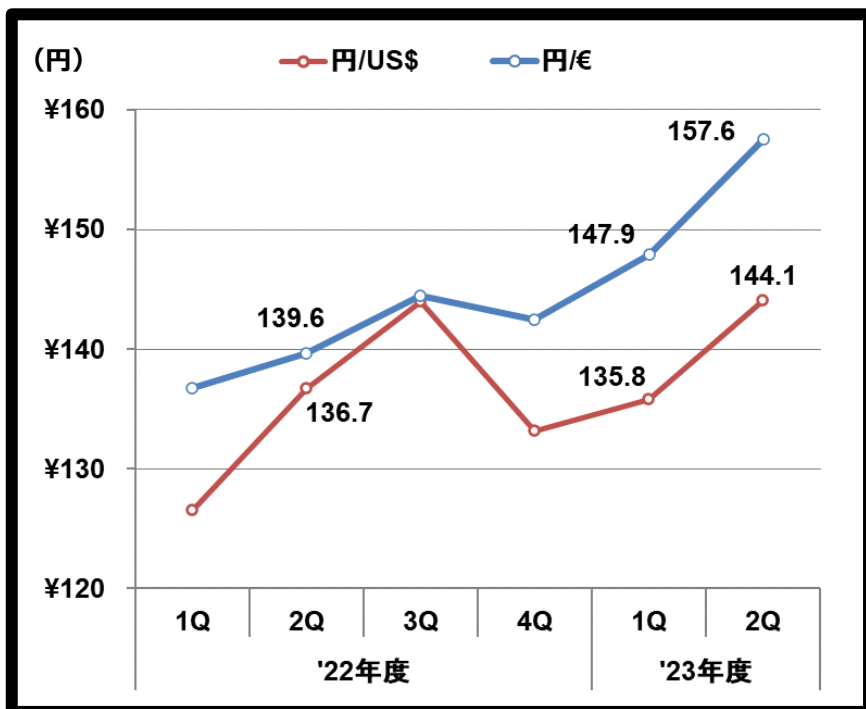
【エラストマー素材の概況】

- ◆ 合成ゴムのYoY出荷量は横ばい、化成品は粘着テープ市場の需要回復遅れ、ラテックスは引き続き手袋需給緩和の影響を受け、YoYは減収減益
- ◆ 合成ゴムは汎用中心にQoQで出荷増えるも、販管費の増加、化成品の固定費単価悪化等の影響を受け、QoQは増収減益

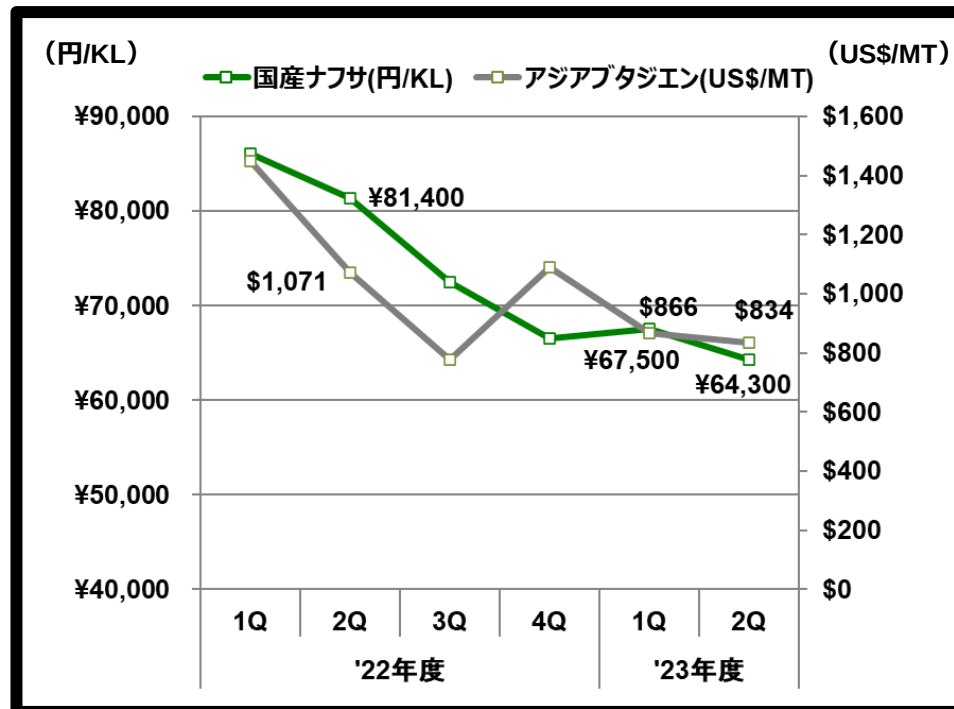
【高機能材料の概況】

- ◆ 高機能樹脂は、大型フィルムおよび光学用途樹脂の出荷回復、中小型フィルムおよび医療その他樹脂の出荷低調で、YoY、QoQともに増収減益
- ◆ 高機能ケミカルは、電池材料の海外関連会社の期ズレ影響等でYoYは減収減益、QoQは顧客稼働率の回復に伴い増収増益

【為替推移】



【主原料推移】



		2022年度 Q2	2023年度 Q1	2023年度 Q2	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥136.7	¥135.8	¥144.1	+5%	+6%
	円/€	¥139.6	¥147.9	¥157.6	+13%	+7%
主原料	国産ナフサ/KL	¥81,400	¥67,500	¥64,300	▲21%	▲5%
	アジアブタジエン/MT	\$1,071	\$866	\$834	▲22%	▲4%

※国産ナフサ：2022年度Q2及び2023年度Q1は確報値、2023年度Q2は当社見込値

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.26	2023年度 業績予想
P.27	2023年度 配当金予想

(単位：億円)	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2022年度	2023年度	対前年
	2022年度 Q2	2023年度 Q1	2023年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減	上期	上期	同期比
売上高	998	919	935	▲ 63	+16	1,974	1,854	▲ 120
営業利益	95	61	33	▲ 61	▲ 28	202	95	▲ 107
経常利益	115	83	47	▲ 67	▲ 36	244	130	▲ 114
当期純利益	87	58	45	▲ 42	▲ 13	174	104	▲ 71

- 前年同期比 : 売上高 ▲ 63億円、営業利益 ▲ 61億円
- 前期比 : 売上高 + 16億円、営業利益 ▲ 28億円
- 通期対前年度比 : 売上高 ▲ 120億円、営業利益 ▲ 107億円

注記：海外関係会社の2023年4～6月実績がQ2連結決算に反映されています。

2023年度Q2 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

（単位：億円）

【売上高】	2022年度 Q2	2023年度 Q1	2023年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	579	522	525	▲ 54	+3
高機能材料	265	252	262	▲ 3	+10
その他の事業、消去等	155	145	148	▲ 7	+3
売上高合計	998	919	935	▲ 63	+16

【営業利益】	2022年度 Q2	2023年度 Q1	2023年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	53	25	12	▲ 41	▲ 13
高機能材料	47	40	26	▲ 21	▲ 14
その他の事業、消去等	▲ 5	▲ 3	▲ 4	+0	▲ 1
営業利益合計	95	61	33	▲ 61	▲ 28

2023年度上期 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

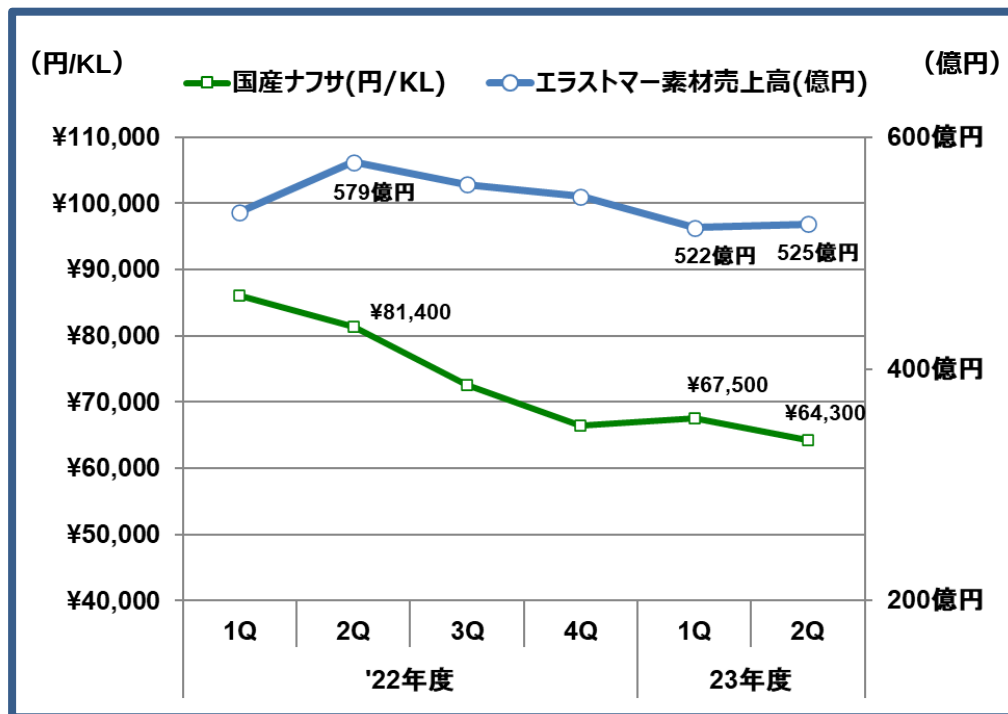
（単位：億円）

【売上高】	2022年度 上期	2023年度 上期予想	2023年度 上期	対前年 同期比	増減率	対上期 予想比	増減率
エラストマー素材	1,114	1,035	1,047	▲ 67	▲ 6 %	+12	1 %
高機能材料	566	515	514	▲ 52	▲ 9 %	▲ 1	▲ 0 %
その他の事業、消去等	294	300	293	▲ 1	▲ 0 %	▲ 7	▲ 2 %
売上高合計	1,974	1,850	1,854	▲ 120	▲ 6 %	+4	0 %

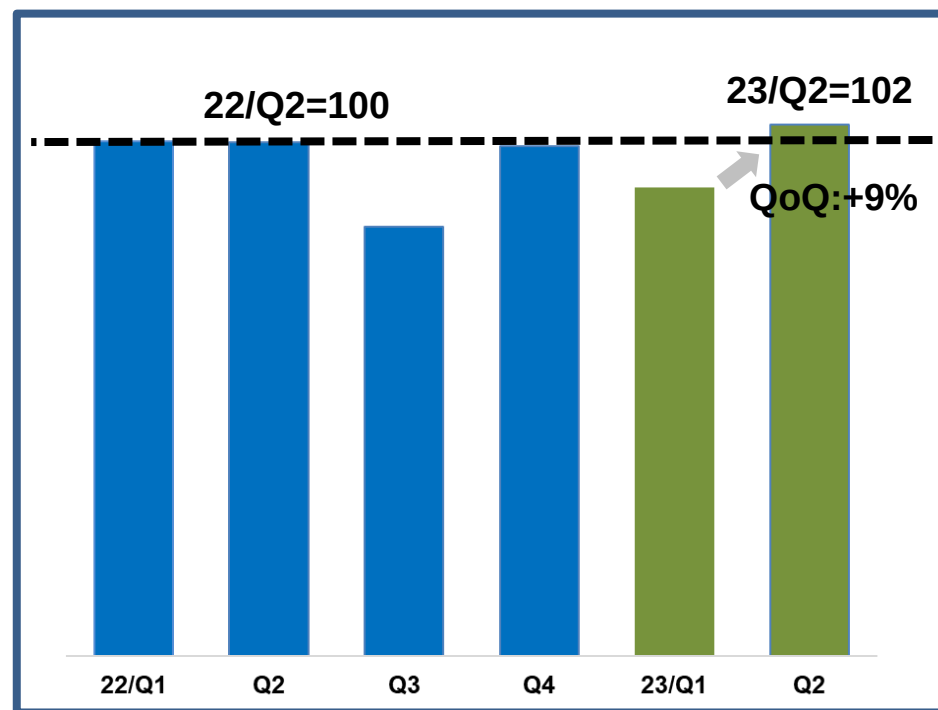
【営業利益】	2022年度 上期	2023年度 上期予想	2023年度 上期	対前年 同期比	増減率	対上期 予想比	増減率
エラストマー素材	93	38	36	▲ 57	▲ 61 %	▲ 2	▲ 4 %
高機能材料	116	80	66	▲ 50	▲ 43 %	▲ 14	▲ 18 %
その他の事業、消去等	▲ 8	▲ 8	▲ 8	+0	▲ 1 %	+0	▲ 3 %
営業利益合計	202	110	95	▲ 107	▲ 53 %	▲ 15	▲ 14 %

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.26	2023年度 業績予想
P.27	2023年度 配当金予想

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量推移】



- エラストマー素材の売上高はYoYで減少、化成品の需要回復遅れが響く
- 合成ゴムのYoY出荷量はほぼ横ばい、QoQは汎用ゴムを中心に出荷増

(単位：億円)

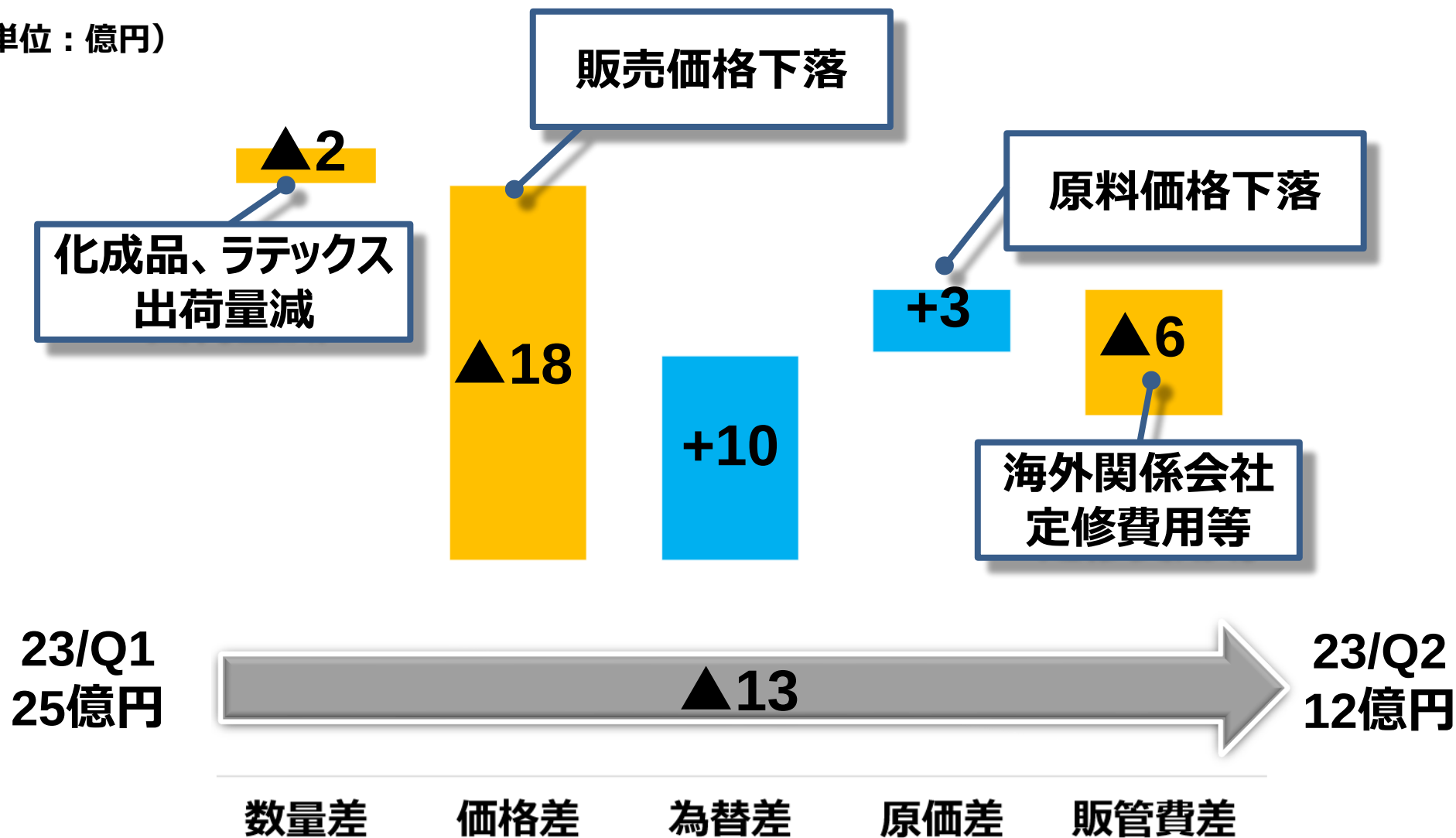
	2022年度 Q2	2023年度 Q1	2023年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (22/Q2=100)	100	89	92	▲ 8 pt	▲ 8 %	3 pt	3 %
合成ゴム	100	94	102	2 pt	2 %	8 pt	9 %
ラテックス	100	60	55	▲ 45 pt	▲ 45 %	▲ 5 pt	▲ 8 %
化成品	100	100	90	▲ 10 pt	▲ 10 %	▲ 9 pt	▲ 9 %
売上高	579	522	525	▲ 54	▲ 9 %	3	1 %
合成ゴム	416	405	405	▲ 11	▲ 3 %	▲ 0	▲ 0 %
ラテックス	43	27	25	▲ 18	▲ 43 %	▲ 2	▲ 7 %
化成品	108	79	82	▲ 26	▲ 24 %	3	4 %
その他・消去	12	11	13	2	13 %	2	18 %
営業利益	53	25	12	▲ 41	▲ 78 %	▲ 13	▲ 52 %
営業利益率	9%	5%	2%				

■ 手袋向けラテックスおよび粘着テープ向け化成品の出荷が低調、売上高はYoYで減少、QoQは横ばい

■ 市況価格の下落、合成ゴムの販管費増、並びに化成品の固定費単価悪化等により、営業利益はYoY、QoQともに減益

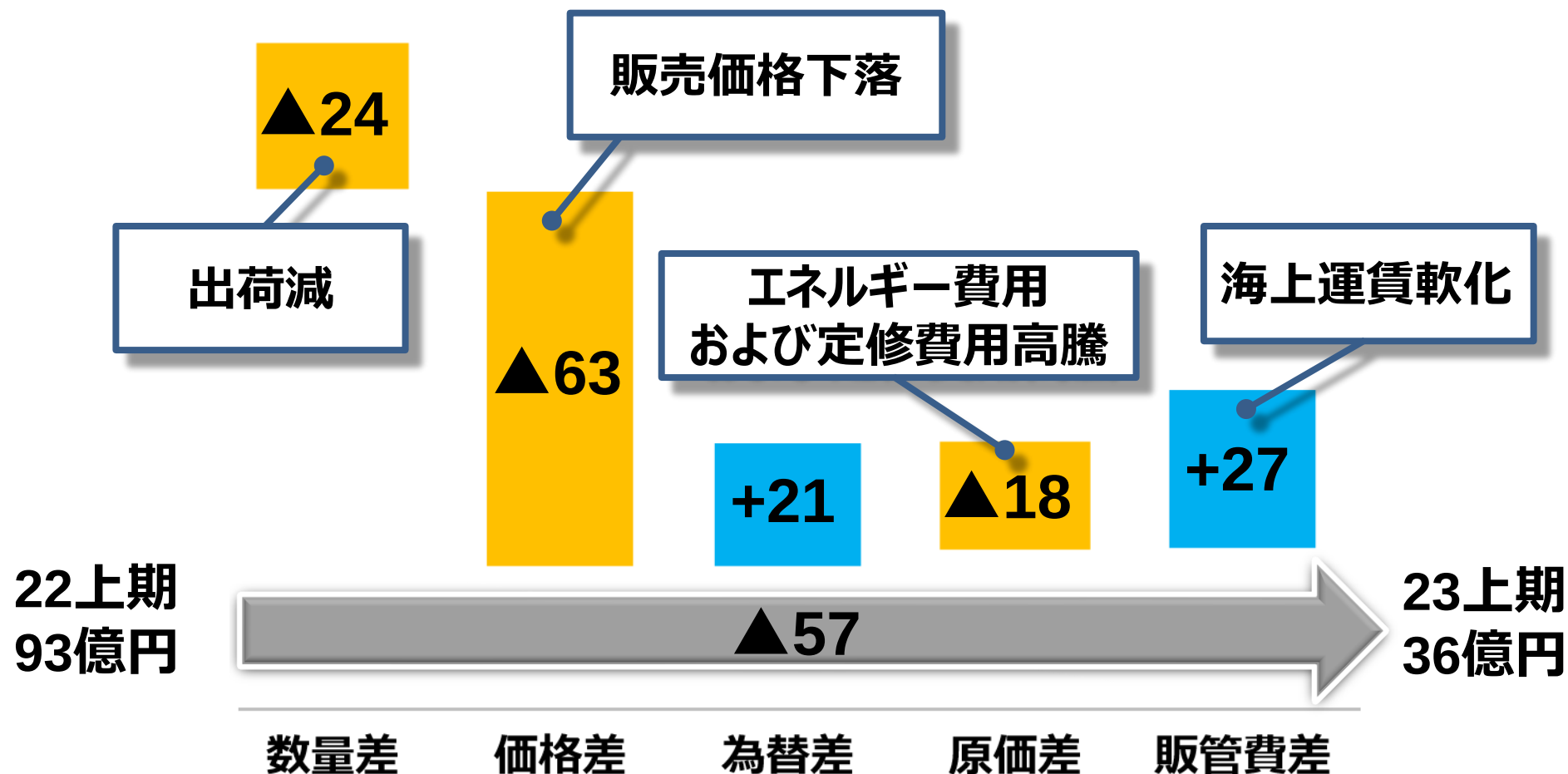
エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異（YoY） ZEON

（単位：億円）



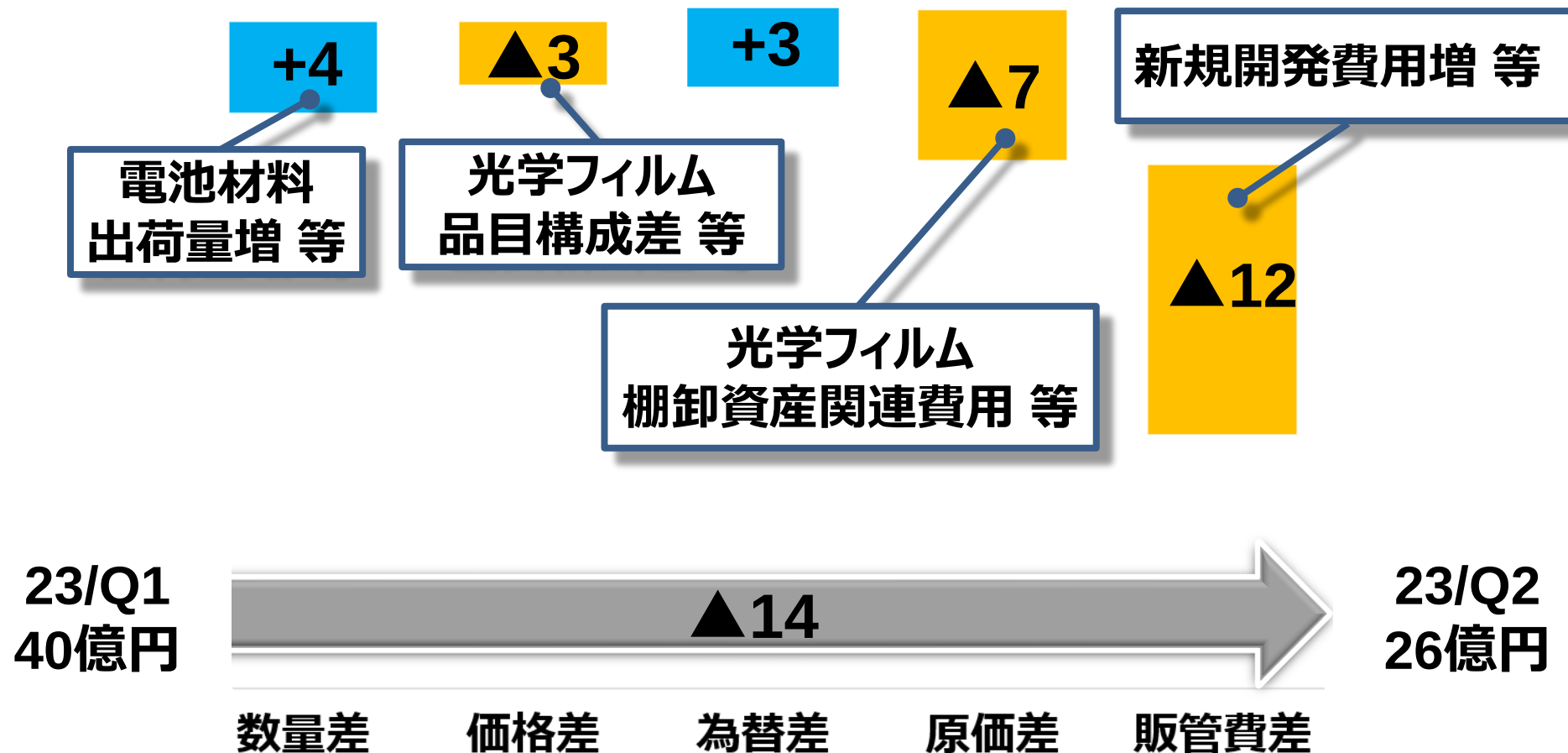
P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.26	2023年度 業績予想
P.27	2023年度 配当金予想

(単位：億円)	2022年度 Q2	2023年度 Q1	2023年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	265	252	262	▲ 3	▲ 1 %	10	4 %
※ 高機能樹脂	151	156	163	11	7 %	7	4 %
高機能ケミカル	102	84	89	▲ 13	▲ 13 %	5	6 %
メディカル他	11	12	10	▲ 1	▲ 10 %	▲ 1	▲ 13 %
営業利益	47	40	26	▲ 21	▲ 44 %	▲ 14	▲ 35 %
営業利益率	18%	16%	10%	※ 高機能樹脂 : 光学樹脂、光学フィルム 高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー			

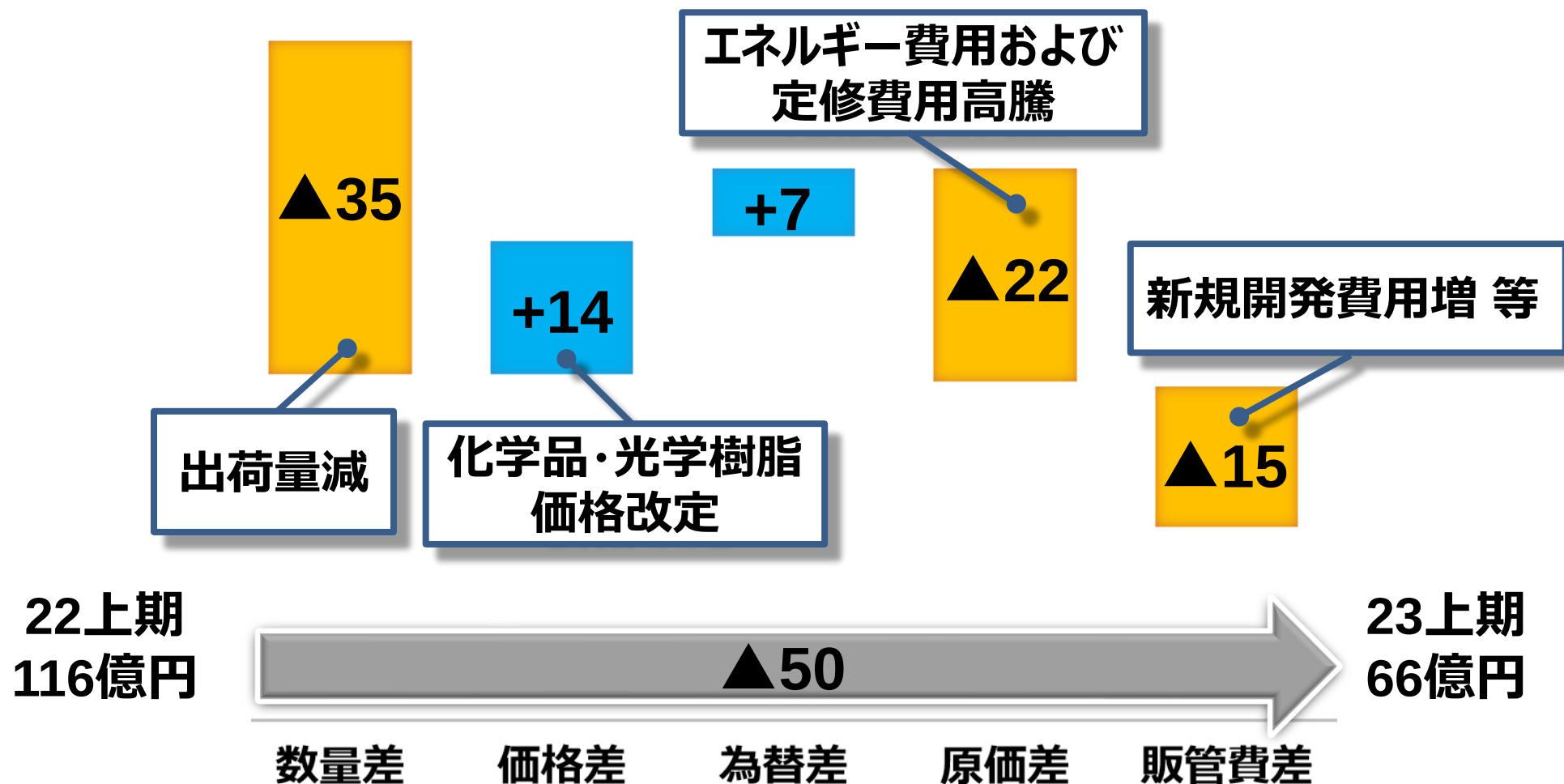
■ 高機能樹脂：大型フィルムおよび光学用途向け樹脂の出荷回復によりYoY、QoQともに増収、中小型フィルムおよび医療その他向け樹脂の出荷低調により、YoY、QoQともに減益

■ 高機能ケミカル：電池材料における海外関連会社の期ズレ影響等でYoYは減収減益、QoQは顧客稼働率の回復に伴い増収増益

（単位：億円）



(単位：億円)



	YoY	QoQ	YoY累計
EV向け	122%	134%	96%
民生他向け	150%	107%	120%
全体	126%	129%	99%

■ EV向け

中国顧客の稼働率は緩やかに回復し、YoY、QoQともに出荷量増

■ 民生他向け

モバイル端末向けは中国顧客の生産調整による底打ちから回復の傾向にあり、YoY、QoQともに出荷量増

	YoY	QoQ	YoY累計
光学用途向け	109%	134%	91%
医療その他向け	78%	84%	92%
全体	85%	94%	92%

■ 光学用途向け

一部顧客の在庫調整緩和に伴い、YoY・QoQともに出荷量増
徐々に需要の復調は見られるも、持続性は曖昧模糊

■ 医療その他向け

水島工場定修に伴う出荷調整および半導体市場の停滞、一部顧客
の在庫調整等の影響を受け、YoY・QoQともに出荷量減

	YoY	QoQ	YoY累計
中小型向け	73%	86%	73%
大型向け	277%	104%	143%
全体	191%	101%	122%

■ 中小型向け

タブレットおよびノートPCの生産台数減、新モデルのスマートフォン生産開始遅れの影響を受け、YoY、QoQともに出荷量減

■ 大型向け

22年度Q2のTVメーカー生産調整から需要が回復し、YoY、QoQともに出荷量増

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.26	2023年度 業績予想
P.27	2023年度 配当金予想

総資産5,357億円（+128）

【流動資産】 ▲90億円

- ◆現預金 +36億円
- ◆売掛債権 +49億円
- ◆未収入金 ▲105億円
- ◆棚卸資産 ▲65億円

流動資産
2,876
(▲90)

固定資産
2,481
(+218)

【固定資産】 +218億円

- ◆有形固定資産 +159億円
- ◆投資有価証券 +40億円

【流動負債】 ▲70億円

- ◆買入債務 ▲144億円
- ◆その他未払金・未払費用等 +74億円

流動負債
1,535
(▲70)

固定負債 255 (+26)

純資産
3,566
(+173)

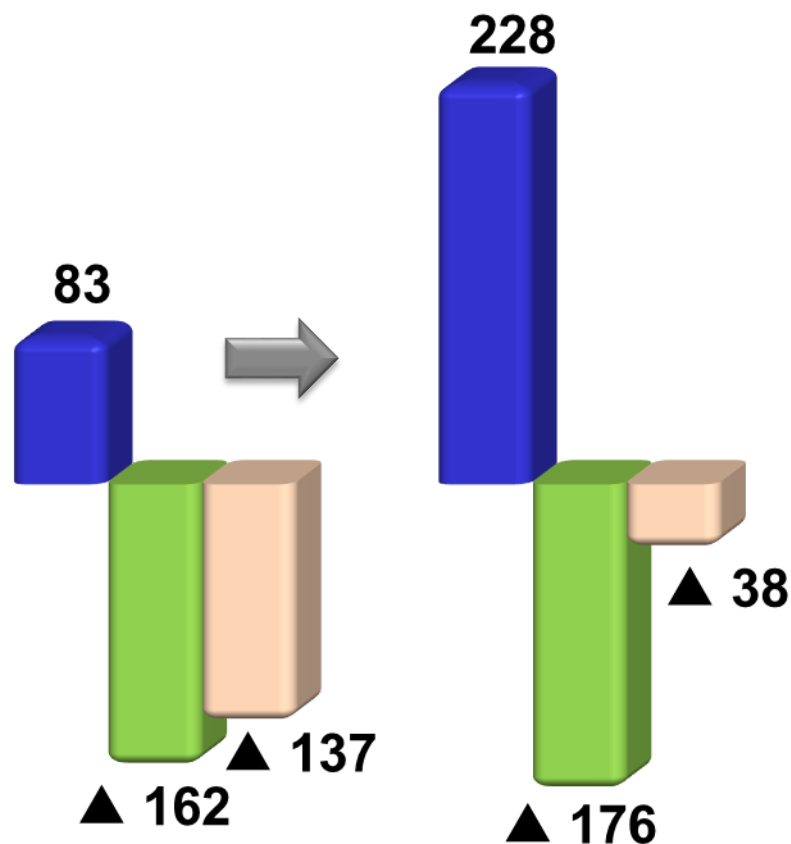
【純資産】 +173億円

- ◆自己資本比率 66.0% (+1.7)
- ◆D/Eレシオ 0.08 (+0.00)

(単位：億円)

2022年度Q2

2023年度Q2



■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

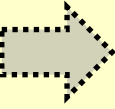
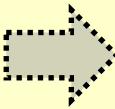
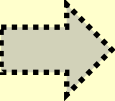
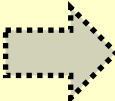
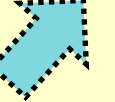
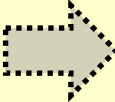
(単位：億円)

	2022年度Q2	2023年度Q2
営業CF	83	228
投資CF	▲ 162	▲ 176
フリーCF	▲ 79	52
財務CF	▲ 137	▲ 38
CF	▲ 216	14

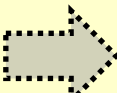
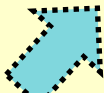
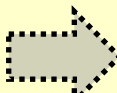
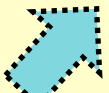
【営業CF】	+145億円
◆ 税前利益	▲ 90億円
◆ 引当金	▲ 41億円
◆ 株式売却	▲ 28億円
◆ 運転資金	+211億円
◆ 税金	+36億円
◆ その他	+57億円

【財務CF】	+99億円
◆ 借入・CP	▲ 29億円
◆ 社債償還	+100億円
◆ 配当金	▲ 11億円
◆ 自己株式取得・消却	+40億円

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.26	2023年度 業績予想
P.27	2023年度 配当金予想

	上期		下期		下期事業環境 コメント
	売上実績	営利実績	売上予想	営利予想	
エラストマー 素材 (億円)	1,047	36	1,063	33	
合成ゴム					中国経済低迷による影響を受けると予想
ラテックス					手袋向け需要は上期並みと予想 事業構造改革を推進
化成品					出荷量増を見込むも足取りは重いと予想

※上期は7/27予想に対する着地状況、下期は上期を起点とした当社見立て

		上期		下期		下期事業環境 コメント
高機能材料		売上実績	営利実績	売上予想	営利予想	
(億円)		514	66	546	78	
光学樹脂						医療その他向け中心に顧客在庫調整、半導体市場低調の影響を受ける
光学フィルム						タブレット、ノートPC向けについて、顧客生産下方修正
電池材料						当初予想と比較し緩やかな需要回復となるものの、継続的な回復を見込む

※上期は7/27予想に対する着地状況、下期は上期を起点とした当社見立て

(単位：億円)

【売上高】	当初下期予想 (4/26時点)	修正下期予想 (10/27時点)	修正年間予想 (7/27時点)	修正年間予想 (10/27時点)	下期業績予想 差異	年間業績予想 差異
エラストマー素材	1,135	1,063	2,170	2,110	▲ 72	▲ 60
高機能材料	615	546	1,130	1,060	▲ 69	▲ 70
その他の事業、消去等	340	337	640	630	▲ 3	▲ 10
売上高合計	2,090	1,946	3,940	3,800	▲ 144	▲ 140

【営業利益】	当初下期予想 (4/26時点)	修正下期予想 (10/27時点)	修正年間予想 (7/27時点)	修正年間予想 (10/27時点)	下期業績予想 差異	年間業績予想 差異
エラストマー素材	48	33	86	69	▲ 15	▲ 17
高機能材料	100	78	180	144	▲ 22	▲ 36
その他の事業、消去等	17	▲ 0	9	▲ 8	▲ 17	▲ 17
営業利益合計	165	110	275	205	▲ 55	▲ 70

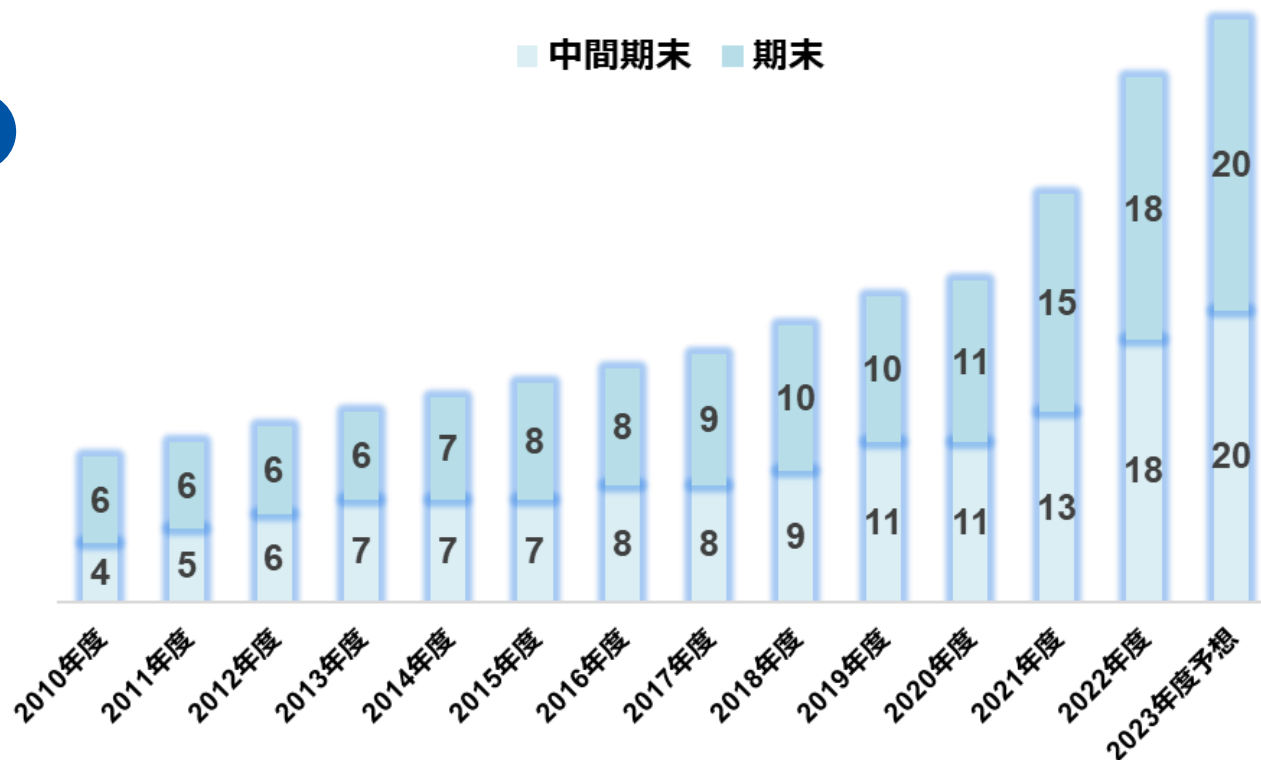
■ 年間業績予想を売上高3,800億円、営業利益205億円に修正

下期予想前提：US\$=140円、€=150円、国産ナフサ=¥63,000、アジアブタジエン=US\$800

【配当金予想、単位：円】

株主還元方針

- 安定的・継続的な配当を維持
- 配当性向30%以上を維持
- 自己株式の取得は
市況や資金需要等を勘案し
機動的に実施



■ 2023年度の配当金は中間20円、期末20円、年間40円予想を据え置く（配当性向は31%の見込）

■ 対前年度比＋4円、2010年度から14期連続増配予想

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

**2023年度
Q3決算発表**

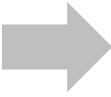
2024年1月31日（水）を予定

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

ZEON
日本ゼオン株式会社

以 上

統合報告書
2023年度版は[こちら](#)

2023年度Q2 (2023年度Q1比)				
事業	出荷	売上	営業利益	QoQ差異説明
合成ゴム				・原料価格下落に伴う販売価格の下落により売上は横ばい ・海外関係会社の定修費用増、Q1棚卸資産関連費用の戻入発生により減益
ラテックス				・手袋向け需要は22年度並み ・原料価格下落により増益
化成品				・出荷品目構成差により増収 ・出荷量回復に向け販売価格調整を実施、Q1棚卸資産関連費用の戻入発生により減益

	2023年度Q2 (2023年度Q1比)					
事業	出荷	連結		単体 収益認識基準調整 なし		QoQ差異説明
		売上	営業利益	売上	営業利益	
光学樹脂						・出荷品目構成差により増収 ・医療その他向け出荷量減、水島定修により固定費単価が悪化
光学フィルム						・大型フィルム出荷量増により増収 ・中小型フィルム出荷量減により減益
電池材料						・出荷量増により増収増益

アップサイド

エンドマーケット需要回復の早期化

為替の円安化

在庫調整終了の早期化

円安ドル高

景気回復

円安ユーロ高

ダウンサイド

エンドマーケット需要低迷の長期化

為替の円高化

在庫調整終了の長期化

円高ドル安

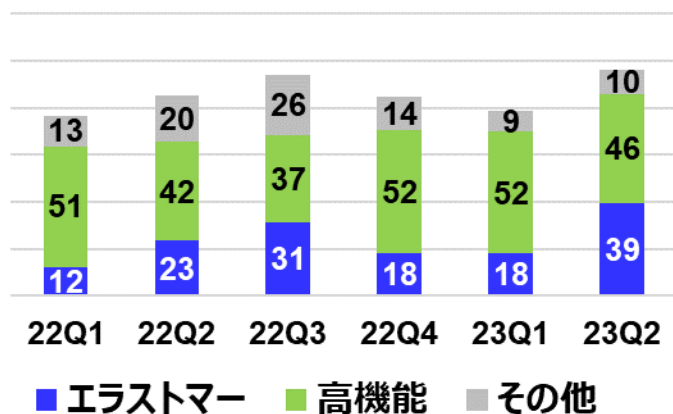
景気悪化

円高ユーロ安

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

【資本的支出】

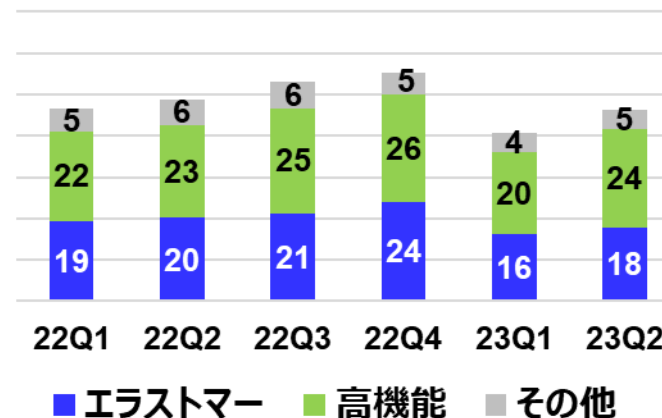


22年度実績
340億円



23年度予想
300億円

【減価償却費】

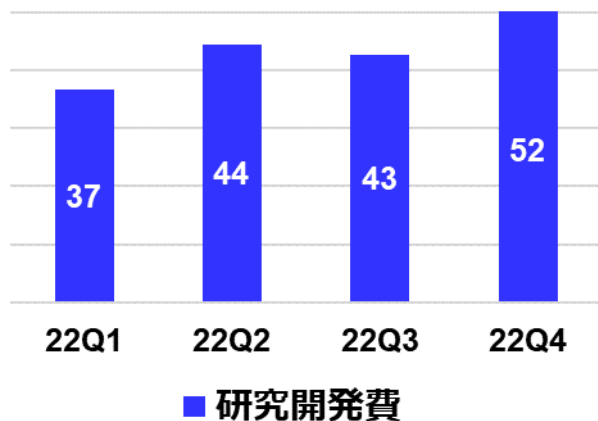


22年度実績
204億円



23年度予想
205億円

【研究開発費】



22年度実績
176億円



23年度予想
180億円